

令和7年度第2回川口市廃棄物対策審議会議事録

- 1 開催日時 令和7年9月29日（月）午後2時00分から午後3時20分まで
- 2 開催場所 リサイクルプラザ4階 研修室
- 3 出席者 （1）川口市廃棄物対策審議会委員：13人
 学識経験者：河井 一広（副会長）
 市議会議員：稲川 和成（会長）、幡野 茂
 市民：守谷 裕之、星野 恒治、川嶋 栄子、
 山本 一恵、遠山 玲子、戸田 良子
 事業者：林 嘉和、岩崎 康彦、鈴木 守郎、小林 愛未

 （2）事務局：25人（※うち(株)地域計画建築研究所より3名）
 須藤環境部長、平山朝日環境センター所長、金野環境総務課長
 荒井自然保護対策課長、水沼環境保全課長、大津資源循環課長
 中村産業廃棄物対策課長、岩田環境施設課長
 中野新戸塚環境センター建設室長、梨子木戸塚環境センター所長、
 岩下リサイクルプラザ所長、塚平鳩ヶ谷衛生センター所長、
 環境保全課田熊課長補佐、環境施設課金子課長補佐
 収集業務課松本課長補佐、リサイクルプラザ濱田副主任
 資源循環課板橋課長補佐、坂本課長補佐、金森主査、野島主査
 仲田主任、神子主事
 ※長澤氏、齋藤氏、佐土井氏（(株)地域計画建築研究所）
- 4 傍聴者 1人 傍聴申込受付期間：令和7年9月19日（金）から
 令和7年9月26日（金）まで 定員6人
- 5 議題 （1）川口市一般廃棄物処理基本計画の改定について
 （2）その他

6 議事録

令和7年度第2回川口市廃棄物対策審議会	
1	開 会
2	委嘱書交付
川口市廃棄物対策審議会新任委員へ委嘱書交付	
3	挨 拶
会長挨拶	

議事録確認者選任 幡野茂委員が指名される。	
議題（１）川口市一般廃棄物処理基本計画の改定について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	スーパーマーケット等による売れ残りは食品ロスとなるが、行政から食品を取扱う事業者に対して行っていることはあるのか。
事務局	本市による組成調査にて、厨芥類が多いことが現状であり、事業者によって消費期限が過ぎた商品が廃棄されることは把握している。本市では「てまえどり」を推奨し、食品ロス削減に努めている。
委員	事業者の売れ残りによって生じる廃棄物について、調査は実施しているのか。
事務局	実施していない。家庭から排出される一般ごみに関する組成調査のみ実施している。
委員	売れ残りは廃棄せざるをえないため、「てまえどり」等の食品ロス削減に関して、更なる分かりやすい周知が必要である。 また、資料１の第３章 食品ロス削減推進計画編【本市の家庭から排出される食品ロス量】について、平成２年から令和６年にかけて大幅に減少しているのはなぜか。
事務局	今後もさらなる「てまえどり」等の食品ロス削減の周知に努めていく。 食品ロス量の変化について、家庭系一般廃棄物の減少に伴い、相対的に減少している。
委員	家庭から排出される一般ごみが減少しているのはなぜか。
事務局	市の取組みの反映及び市内在住者の世帯構成等の変化、事業者の店頭回収等の増加によるものとする。
委員	市民や事業者による取り組みによって減少したと考えて間違いなのか。
事務局	そのとおりである。
委員	本市は生ごみ処理容器に対する支援金があるが、堆肥化した土の活用方法に関する市民アンケートは実施したのか。
事務局	活用方法に関する市民アンケートは実施していない。今後の課題として検討していく。
委員	資料２の６４ページ【基本施策１３】について、「処理施設の更新に

	合わせる」というのは、令和１２年から令和１７年の朝日環境センター処理施設の更新に合わせるということか。
事務局	資源化施設も含めた朝日環境センターの更新によるものである。
委員	資料３の１２ページについて、フードドライブを認知していない市民が多くを占めているため、企業・事業者等と連携し、取り組む必要があると考える。
事務局	市内公民館等や市内開催イベントにて、フードドライブを実施しているため、今後も地域コミュニティと連携し、周知に努める。
委員	フードドライブの意義とは何か。
事務局	家庭で余っている食品等を必要としている人へ寄贈する活動である。令和７年度も各公民館等にて実施している。
会長	市民へ周知する際には「フードドライブ」の具体的な概要も含めた詳細な周知啓発をしてほしい。
委員	リチウムイオン電池使用製品の排出方法について、認知度はまだ低いと考える。絶縁の方法等を市民へ周知してほしい。
事務局	現在、市広報紙及び環境部広報紙、マスコミ等にて周知している。今後も継続して、周知に努めていく。
委員	リチウムイオン電池の排出方法について、他国籍住民のための外国語版のパンフレットはあるのか。
事務局	ホームページにて、外国語版は６言語のチラシを掲載している。
委員	住民へ配布したいが冊子になっているものはないか。
事務局	現在は、冊子になっているものはない。ホームページよりダウンロードして活用いただきたい。
委員	パンフレット等を作成する際には、多国籍住民にもわかりやすくしてほしい。外国籍住民への排出方法の共有が必要であると考えます。
事務局	今後分かりやすいパンフレットの作成に努めていく。
委員	集積所の管理については、町会や自治会等により行われている。新住民にやさしく丁寧に説明し、理解をうながす働き掛けは、町会・自治会にて担うものである。
事務局	市内に集積所は約２５，０００ヵ所設置されている。最終的には町会・自治会等や地域住民の方の協力が必要不可欠である。今後も行政と町会・自治会等と協力しながら、努めていきたい。

委員	リチウムイオン電池の絶縁方法に関する外国語版のパンフレットはどこに設置されているか。
事務局	ホームページよりダウンロードして活用いただきたい。
委員	環境部広報紙に掲載されているリチウムイオン電池の排出方法の記載が分かりづらい。また、家庭から排出される「ごみ」と「廃棄物」という単語が同一のものを指しているという認識がなかった。市民が分かりやすいように周知してほしい。
事務局	わかりやすい周知に努めていく。
議題（２）その他	
事務局より、朝日環境センターごみピット火災現地調査結果について説明。 次回以降の廃棄物対策審議会の日程を伝達。 遠山委員より、フードロス関連のイベント案内。	
委員	生ごみを堆肥化したものは、家庭菜園をしている人へ配布したいが、不足している。戸田市では、堆肥を分析センターにて分析し、使用している。生ごみは資源であるという認識を持っていただきたい。
会長	堆肥化したものについて、調査等行い、今後の課題としてほしい。
会長	最後に各委員から何かあるか。
委員一同	意見なし。
会長	貴重な意見を賜り感謝する。以上で本日の議事は全て終了する。
事務局	以上で令和７年度第２回川口市廃棄物対策審議会を閉会する。
閉会 (１５：２０)	
会議の内容については、以上のとおりです。 令和７年１０月１４日 川口市廃棄物対策審議会議長 稲川 和成 川口市廃棄物対策審議会委員 幡野 茂	